

南丹市美山町音海

江藤政行さん、公江さん夫婦からお話を聞いて

感想



林陽子さん

美山に移住19年目。アロマセラピスト
美山 陽だまりアロマ亭 野の花 主宰



この度、取材担当をさせていただきました、私（林陽子）は、江藤家とは個人的お付き合いをさせて頂いております、14年来の間柄になります。また、mW oの一員でもあります。今年も、無事に14年目のmW oの公演が終わり、打ち上げが江藤家であった翌日に、取材に伺いました。あらためて、江藤家族をこうした形で取材をさせて頂きまして、江藤家族の美山暮らしの充実ぶりの様子と特に政行さんの地域の貢献の大きさを感じました。

また、私自身も1ターンで、美山に移住し田舎暮らしを始めた者ですから、やはり、江藤家族にとっても色々とお苦勞なこと、辛かったことも少なからず、おありだったことでしょうか、そうした、苦勞話などは一切出ませんでした。同じ美山に住む人間として、大変だったと思うのは、江藤家族が住んでいる「音海」という集落です。この集落は、美山の中でも、限界地域と言われている谷が深い地域でして、冬の雪が降り積もったときは、集落から出てくるのは至難の苦勞がある場所です。しかし、江藤政行さんがおっしゃるとおり、自然と対話、対比するには、うってつけの場所であるわけで、江藤家族が住むに場所として最高の環境であり、だからこそ、充実した美山暮らしをしてこれ、愛娘のつぐみちゃんもすくすくと育ったのだと思います。

つぐみちゃんのこと保育園に通っているころから私は知っていますが、感受性が豊かな、とても素直な女の子です。つぐみちゃんの人格形成に大きな影響を及ぼしたのは、お母さんである公江さんの明るい性格とお父さんである政行

さんのアーティストとしての感性はもちろん、自然豊かな美山の環境の中で育ったことも間違いのないことでしょう。

その証拠に、つぐみちゃんは野生の鹿の鳴き声を真似が出来て、本物の鹿がつぐみちゃんが真似した声に近寄ってくるくらいなのですから、つぐみちゃんの感性は、都会の今どきの女子高生には持ち合わせていない魅力があるのも確かです。

今、つぐみちゃんに通っている高校は、京都市右京区にある「北桑田高校」です。平成18年の市町村合併まで、「北桑田高校」のある元、京北町と美山町は同じ北桑田郡でした。美山町で生まれ育った子供たちは、昔から大体、進学する高校が「北桑田高校」でした。

昨今、美山町で育った子供たちの進学先の傾向としては、親が子供の将来を考える中、田舎と都会との学歴の差や、都会へ出た時のギャップを心配するあまり、高校から地元の学校でなく、都心部に近い近隣の市町村の高校や京都市内に進学をする子供たちが増えている状況が続き、今や、北桑田高校は、府内最小人数高校になり、行く末の存続が心配される事態となってしまうようです。また美山町が4年後に控えていることは、美山町内の5つの小学校が一気に閉校し、合併して一つの小学校になることが決まり、その準備に各学校や地域、保護者の間での話し合いが行われている状況です。

美山町の5つの小学校は、5つの村が合併して美山町になった以前からの小学校で、どの小学校も約140年ほどの歴史ある小学校です。今や、どの小学校も児童の数が減り続けて、複式学級が行われていることや、将来、子供の数が増加する見込みが立たないことから、合併が決まったようです。会の学校とは違い、少人数だからこそ、出来る教育、メリットもあるはずですが、子供の人数を多くして教育を行う方のメリットだけを重視した選択なののでしょうか。

参照：「てふてふおしゃべり畑」ブログ・・・

<http://ameblo.jp/miyama-nonohana>

大野村の時代からあった（創立140年前）大野小学校は、後、残り4年ほどの時間しか残されていません。

大野地区から小学校が消えるということは、どれほど地域の衰退を促進させることか、そのことについて誰も危機感を感じていないのか、合併反対運動もしくは、反対意見が出ないことが私個人としては不思議でなりません。とにかく、大野小学校の残り少ない時間ぎりぎりまで、住民の一人として、大野地域全体の活性にもつながる、小学校の行事の協力などをして行きたく、えとうまさゆきさん主宰のmWoの活動を最後までやり通したい思いが私、個人的に強く思っている気持ちです。

今や和が子は高校生になり、大野小学校の保護者でもない立場のえとうまさゆきさんが、mWoという劇団の公演を通して学校行事の取り組みである「にじの子カーニバル」を盛り上げられるのも、地域住民として学校を盛り上げたい意識も強いことと思われま

えとうまさゆきさんの書かれる脚本の魅力には、お芝居を見る子供たちも惹きつけられ、役者をするメンバーも惹きつけられています。

自らも役者として出演され、えとうまさゆきさんご自身が大いに楽しんで取り組まれている結果、mWoの活動が継続してこれまであり、メンバー自らも役者として出演され、えとうまさゆきさんご自身が大いに楽しんで取り組まれている結果、mWoの活動が継続してこれまであり、メンバーたちもこの季節になると、集中して芝居の稽古に1ヶ月の間、頑張ります。

メンバーのそれぞれは、普段色々な仕事についており、事情も様々ですが、メンバーの誰しもが楽しんでやっているところが、14年間の継続の活動の根源だと思われまます。

演劇を通して、子供の情操教育がされている取り組みは、昔から全国の小学校で取り入れられていた取組ですが、昨今、特に都会の小学校では学習発表会で子供たちにお芝居をさせる先生、つまり、学校が減ってきています。その理由に、1年間の教育カリキュラムの多さが問題、のようです。クラスの担任をしている先生がお芝居を指導する時間的余裕が無い現状と、子供たちの「役名」を決めるときに、もめごとの要因の一つになりかねないことの原因があげられているようです。(モンスターペアレンツからの苦情が出ることの恐れも影響しているようです。)

しかし、大野小学校の現在の校長先生から大野小学校の児童に演劇の指導を来年もしてほしいとの要望をきかされて、えとうまさゆきさんもメンバーの一人として、嬉しく感じています。えとうさんの頭の中には、次作の構想が早くもあるようです。

えとうさんのように、田舎暮らしを通して、ご自身が楽しく成長されて、また、地域への貢献がなされている姿は、とても自然体で素敵だと感じられ、私自身も取材を通して、あらためて、このえとうさんとのご縁をいただいたことに感謝しました。